

この紙のゴール: 分詞構文を使って、場面が目には浮かぶ描写を3文以上で話し、まとまった英文で書ける

モデル モデル (先輩の書いた例。声に出して1回読もう)

Opening the classroom door, I heard someone practicing the piano.
教室のドアを開けると、だれかがピアノを練習しているのが聞こえた。

Looking inside, I saw a first-year student sitting alone at the back, playing the same phrase over and over.
中をのぞくと、1年生がいちばん後ろにひとりですわって、同じフレーズを何度もくり返していた。

Having listened for a while, I quietly closed the door and walked away.
しばらく聞いてから、私は静かにドアを閉めてその場を離れた。

型で書く 型で書く一場面を3文 思考・判断・表現

内容は自由。形だけ型どおりに。書けたら隣の人と交換して、-ing の主語が主節の主語と同じかだけを見合おう。

(1) Opening _____, I found _____. 開けると→見つけた (基本形)

(2) Not knowing _____, I _____. 分からないまま→した (否定形)

(3) Having _____, I _____. ~してしまってから→した (完了形)

ペアで話す ペアで話す—「あのときの場面」インタビュー

ここでは形を体に入れるために口に出す (ふだんの会話では接続詞で言っただけでいい)。交代で質問→答えは1文+ひとこと補足。答えに Really? What happened next? を1回は返す。

(1) What did you see when you opened your classroom door this morning?

今朝、教室のドアを開けたとき、何が見えた？

(2) What do you usually do while you are waiting for a train or a bus?

電車やバスを待っているとき、ふだん何をしている？

(3) Tell me about a time you finished something and felt relieved.

何かをやり終えてホッとしたときのことを教えて。

(4) How do you listen to music: with your eyes closed, or while doing something else?

音楽はどう聞く？ 目を閉じて？ 何かしながら？

あいづち・返しの型: Really? What happened next? That sounds nice. Same here. I can picture that. Then what?

分詞構文で場面を描く (標準) | 自分の番

年 組 番 名前

書く 自分の番—60語前後で書く 思考・判断・表現

Describe one scene from your school life so that the reader can see it. (学校生活のひとコマを、読む人の目に浮かぶように描く)

①いつ・どこで (分詞構文で場面を開く) ②何が起きたか ③そのとき思ったこと—の3段で、60語前後。分詞構文を2文以上使う。

評価 先生はここを見ます (加点式)

分詞構文を2文以上、正しい形で使えている (主語のずれがない)	+4点
「場面→出来事→思ったこと」の流れがある	+3点
自分にしか書けない具体がある (固有の場面・気持ち)	+2点
50語以上書けている	+1点

※減点式にしない—書いた量と伝わった中身を評価します。細かい誤りは返却後の書き直しで扱います。

振り返り ペアで読み合って、相手の文でいちばん良かった1文をメモ